

2023年6月12日

JR 東日本エネルギー開発株式会社
代表取締役社長 松本義弘 様

〒644-0022 和歌山県御坊市名田町上野 1465
日本野鳥の会和歌山県支部 支部長 中西正和

〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル
(公財) 日本野鳥の会 理事長 遠藤孝一 (公印省略)

(仮称) 新白馬風力発電事業に係る計画段階環境配慮書に対する意見書

貴社が作成された(仮称)新白馬風力発電事業に係る計画段階環境配慮書(以下、配慮書という)に対し、下記のように意見を提出いたします。

記

1. 猛禽類の渡りについて

資料(4-41)で示されている鳥類の渡りの経路図は、あくまで衛星追跡された個体の飛翔経路であり、これをもって事業実施想定区域(以下、計画地という。)が猛禽類等の渡り経路になっていないということとはできない。すでに(4-36)で専門家が指摘しているとおおり、この尾根の延長線上に位置する日の岬では多数の猛禽類の渡りが観察されており、タカ渡りネットワークでその状況が公開されている。既存のウインドファームは風力発電事業がアセス法の対象事業になる前に建設されたため、鳥類調査を含め法アセスに係る手続きが行われていない。そのため、実際には計画地が猛禽類などの渡り経路に該当しており、多くの猛禽類がこの付近を通過していた可能性がきわめて高い。今回の事業計画は計画地が既設のものよりもかなり広く、さらには大型化するため、バードストライクだけでなく障壁影響を含めた猛禽類の渡りへの影響が懸念される。事業による影響を評価するためには、詳細な調査により猛禽類の渡りや移動の経路の位置を明らかにする必要がある。なお、渡り鳥の経路はその時の気象条件によって大きく変化するため、長期間(1ヶ月程度)の調査を複数回、かつ複数年行うことが必要で、一般的な猛禽類調査で行われる月1~2回で連続した3日間という調査では不十分である。

2. クマタカの生息について

計画地ではこれまでに詳細な調査が行われていないため、クマタカが生息していることを示す資料はないが、湯浅御坊道路建設(4車線化)に伴う環境影響評価では、対象区域の北側の津木地区でクマタカの繁殖が確認されており、同じく北側の新鹿ヶ瀬トンネル周辺で目撃例が多く報告されている。また、国道を挟んで西側(海側)に位置する大平山周辺では、クマタカのつがいが確認されており、繁殖している可能性が高いと考える。したがって、計画地ではクマタカが生息している可能性が非常に高いと考えられ、詳細な調査が必要である。なお、周辺地域のクマタカは、隔年での繁殖がほとんどである(子育てに2年間かかる)ため、2繁殖期の調査を行うためには、3~4年が必要である。

以上の理由から、今回の事業計画は鳥類において、猛禽類の渡りとクマタカの生息に影響を与える可能性が高い。そのため、事業実施のためには詳細な鳥類調査が必要であり、その結果、希少鳥類への影響が懸念される場合は、事業計画の見直しもしくは大幅な縮小が必要である。

以上